NIE実践報告

1．タイトル：☆興味関心を高め、自ら考える力を育てる

2．学校名

上越高等学校(新潟県、私立)

3．実践者名（代表者名）

宮腰　一

4．学年

第2学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

現代社会

6．単元（本時の学習課題）名

「人類の課題」　人種・民族問題

7．目標（狙い）

オバマ大統領就任、マイケル・ジャクソンの死というできごとを新聞記事を通じて学び、そこからアメリカ合衆国の歴史と現代社会を見つめ、人種差別という課題を考える。

8．評価の視点

単元を通じて学んだことを、小論文レポートにまとめて提出する。その小論文の内容が、事実を正確にとらえているか、その事実をもとに、考察し、論理を展開し、自分なりの結論に達することができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「新版　現代社会」(教科書　実教出版)　年間70時間
「人類の課題」　6時間　　人種・民族問題　3時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

(1)新聞記事「オバマ大統領就任」「マイケル・ジャクソン氏死亡」から　1時間
(2)新聞記事「イギリス政府、奴隷貿易について謝罪」から
　アレックス・ヘイリーの小説「ルーツ」から　人種差別の歴史的背景を学ぶ　1時間
(3)自習教材「キング牧師とマルコムX」を使い、アメリカ合衆国の現代社会について考える　1時間

11．児童・生徒の反応、感想・意見

オバマ大統領、マイケル・ジャクソン、あまりにも有名な現代の二人を通じて、現代社会が奴隷制度、人種問題などの歴史的課題の延長線上にあることを感動的につかんでいく。奴隷貿易や人種差別がなぜ起きたのか、現代社会では人権はどのように位置づけられているか、確認することができたという感想が多かった。

12．成果と課題

年間の時間数が限られているため、3時間しか確保できなかった。もっと時間をかけて、じっくりと生徒が歴史的事実と向きあい、現代社会を考える時間が必要であった。しかし短時間の取り組みの中ではあったが、歴史的な問題が未だに現代に影を落としていることを生徒たちは知り、未来に向けて自分自身がどのような生き方を問われているかと考える生徒が少なからずいたことは、大きな成果と思われる。